

令和7年度 伊那市立長谷中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
学是「不撓不屈(ふとうふくつ)」 心豊かに たくましく 創造力溢れる生徒 ～生徒自身とふるさと長谷の ウェルビーイングを目指し、 エージェンシーを育む学校・ 地域とともにある学校～	○思いやりの心を育む。 ○自主的、自発的な学習態度を育て、学力、体力の向上を目指す。 ○自分で考え、判断し、行動できる力をつける。
	今年度の重点目標
	(1)地域に根ざした学習を通して「ふるさと長谷」に誇りと愛着を持つ生徒の育成 信州型コミュニティースクールの活動推進～ふるさと長谷を元気づけるために～ ・「暮らしの中の食」活動の推進 農業体験 給食の食材栽培 食文化体験 ・地域の皆さんとの協働作業 唐辛子栽培、ラー油づくり、畑を通じた交流 ・南アルプス太鼓、音楽部の地域行事での発表 ・より良い長谷、より良い長谷中の創造 ----- (2)人とのつながりを大切にし「思いやりの心」を育む生徒の育成 地域の交流拠点としての学校 ～交流体験を通して学ぶ～ ・長谷の出張縁側・長谷の緑日、地域全戸への花苗の配付 ・サンハート美和(老人養護施設)へのふれあい訪問 ・地域参加型の文化祭・運動会 ・伊那養護学校との交流 ・未就学児との作物栽培を通じた交流(公民館事業との連携) ----- (3)小規模校のよさを生かした学習を通して、「確かな学力」を身につける生徒の育成 問いの解決に向けて主体的に追究する生徒の姿を目指して～生徒一人一人が個人探究、全校探究を通して、学ぶ喜び・幸せを実感する～ ・自ら考え主体的に学ぶ授業 振り返りの充実 ・夏休みを中心とした個人探究と総合を中心とした全校探究の実施 ・小学校からの9年間を見据えた学力向上への取組み ・異年齢グループでのコミュニケーション力を伸ばす

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○学校評価アンケートでの「学校生活が楽しい・満足している」という項目の到達度は、生徒88%、保護者77%で、おおむね中学校での生活に満足している結果が得られた。 ○生徒の「授業で自分から調べたり考えたりしている」の項目の到達度は87%であり、引き続き主体性を育むよう努めていきたい。 ○地域との交流活動が豊かな心を育むことへの評価は、生徒87%、保護者94%だった。地域連携を軸とした特色ある教育活動ができる本校の強みを今後も十分に活かし、生徒の心身の成長と学力向上を図っていく。		
(1)地域素材を課題に据えた問題解決型の学習を行い、地域に根ざした長谷中ならではの行事や学習に主体的に取り組むことができた。学校評価アンケートで、「生徒会活動や行事等に主体的に参加し、やりがいを感じている」と答えた生徒は93%だった。暮らしの中の食では、野菜の種類ごとに学年を越えたグループを編成し、調査や地域の方への聞き取り等を通じて、生徒主体で育成を行った。	A a	○活動が過密になっている様子が見受けられるため、整理しながら地域で学び、地域に貢献する活動を継続していく。自分で課題を設定し追究することを大切にしつつ、人の役に立つ経験を通じて自己有用感を高めていきたい。 ○地域や社会の役に立ちたいと思っている生徒は87%であった。地域への思いを持って活動する生徒が多い中、今後も異なる立場で考えたり、多角的に考えたりする機会を設け、キャリア教育と連携して展開していく。
(2)昨年好評だった「長谷の出張縁側」を公民館4カ所まで、内容を改良しながら行った。長谷地区内全戸パンジー配付活動は今年度も継続して実施し、地域の方と直接関わる機会となった。「ふれあい訪問」では、福祉施設の訪問交流を行ったりイベントでの太鼓演奏を行った。伊那養護学校との交流も継続して実施し、豊かな心を育てる学習に対して保護者からも94%の高評価を得た。	A a	○生徒の発想を大切にしながら、地域の方と関わる活動や福祉活動などを引き続き位置づけていく。生徒と地域の方々の安全・安心に留意しつつ、畑活動や職場体験学習、保育園・小学校と連携した防災訓練など、地域の方々や高齢者、さらに園児や未就学児、小学生とのふれあいをさらに充実させ、「立場を変えて思考できる生徒の育成」を目指していく。
(3)学校評価生徒アンケートでは、「授業では自分から調べたり考えたりしている」の到達度が87%、「地域との交流活動は、私の力を伸ばすことに役立っている」も87%であった。小規模校の利点を活かした小中合同の活動や、学年を横断した学習形態で主体的に学ぶ環境を継続したい。個人と全校の二本柱で探究学習に取り組み、全校で実施した総合的な学習の時間の畑活動は、教育研究会Ⅲで授業公開を行った。評価アンケートにおいて家庭学習への評価が70%を切っているため、次年度の課題として改善していきたい。	B b	○小規模校の利点を活かした教育活動を継続し、「主体的な学び」につながるように改善していく。同僚性を発揮した学び合う集団として、授業研究や公開授業、研修会などを通じて授業改善に努める。 ○各教科での指導や、生徒への問いかけ・生徒同士での交流の中で、家庭学習に主体的に取り組み、内容を充実させられるように働きかけていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○個々の生徒につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程が展開できたか。
		○主体的に取り組める教育活動の展開	○関心・意欲・態度の向上を目指しながら特色ある・魅力ある教育活動が展開できたか。
	学習指導	○「分かる授業」「魅力ある授業」の実践	○教えること、考えることを明確にするとともに、学び合う場の設定や喜びを大切にしながら「分かった」「できた」という成就感を持って終える授業ができたか。
		○生徒の学力が定着し発展を目指す個別最適学習の実践	○個々の課題を的確に把握し主眼を明確にししながら学習問題を位置づけ個々の生徒の力を伸ばす授業ができたか。
	部活動	○主体的に取り組める部活動の実践	○個々の目標を明確にししながら意欲的に部活動に取り組める指導ができたか。
○生涯親しみを持つ基盤としての部活動運営		○生徒・保護者・他団体と連携を円滑にしながらか活動を発展させることができたか。	
生徒指導	○生徒理解に基づいた個々の生徒への指導	○生徒の心情を大切に、背景を考えながら指導すると共に報告・連絡・相談を密にしながらか生徒指導ができたか。	
	○教育活動との連携や人権感覚に基づいた適応指導	○「道徳授業」や「福祉活動」の実践及び人権感覚の育成ができたか。 ○いじめをしないさせない みのがさない「思いやりの心」を育成できたか。	
学校運営	安全	○安全の保持	○学校の施設・設備は安全で学びやすい環境に整えられているか。
		○安全の確保	○安全指導がきめ細くなくされ情報伝達も素早く行き渡り安全の確保がなされたか。
	との地域	○通信や授業参観等を通しての理解	○学校だよりや学年だよりHP等で学校の様子や現況を積極的に知らせたか。 ○授業参観・行事参観等を通して学習指導に関して保護者に理解してもらえたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○生徒の到達度は、「学校が楽しい」で88%、「学校の行事や生徒会活動は楽しい、やりがいがある」は93%であった。学年だけでなく、学年混合の活動を多く取り入れるなかで、全校の中での存在感が持っているとされる。	A b	○小規模の利点を活かした生徒一人ひとりへの支援をきめ細かにを行い、どの生徒も活躍できる場を設定していく。異年齢での学習・特別活動を積極的に取り入れて、全校の中で活躍する場を設けていく。
○「地域との交流活動は、人とかかわる力や願いを実現する力など、私の力を伸ばすことに役立っている」の生徒到達度は87%で昨年と同値で高水準を維持している。地域の協力を仰ぎながら持続できるようにしたい。	A a	○生徒の発想を大切に教育活動を継続し、教科で身につけた見方・考え方を活かした創造的な活動にいく。生徒一人ひとりの役割に対して、努力や成果が認められるようにしていく。
○生徒の到達度は、「授業が楽しく分かりやすい」と評価した生徒は85%、「授業では自分から調べたり考えたりしている」で87%であった。全校探究と個人探究を柱に、資質能力の育成を図っていく。	A b	○全国学調などのアセスメントを活かし、生徒の実態に合わせた授業改善の柱を決めだし全職員で取り組む。次年度は、心理的な安全を土台として、学習に安心して取り組み試行錯誤できる環境づくりに取り組む。
○「先生は分かるまで教えてくれる」の生徒到達度は94%、保護者76%で昨年度より向上した。放課後学習に取り組んだり、授業外に質問する生徒が多く見られたりする。「家庭でも自主的に勉強に取り組んでいる」は生徒69%、保護者63%で課題。	B b	○定期テストや総合テストなどの分析を行い一人ひとりの実態に合わせた学習支援を行う。 ○家庭学習の取り組み方について、生徒と共に考えながら丁寧に指導を行っていく。
○学校評価における「部活動は楽しく充実している」の達成度は生徒99%、保護者92%だった。地域展開は各方面と協議中。	A b	○平日の活動は2時間、休日は3時間として生徒の健康と家庭での時間との折り合いをつけた活動を継続していく。長谷の地域性を考慮しながらそれぞれの部に合った地域展開を進めていく。
○ソフトテニス部は少人数で団体戦に出られないこともあるが、意欲的に活動している。音楽部も少人数で、大規模校のような合唱は難しいが、春と秋のコンサートを実施したほか、要請を受け地域の福祉施設やイベントで演奏を披露した。	A a	○地域との交流を意識しながら活動していく。休日は部活動指導員の支援を受けながら活動していく。
○「教師が親身になって相談のつてくれる」の到達度は生徒が89%、保護者86%だった。生徒が気軽に相談できるよう、雑談会を通じたリレーションづくりや学年での個別面談などで、生徒の気持ちにより添えるように取り組んでいきたい。	A b	○定期的な生徒面談、「何でも雑談会」等により生徒が相談できる機会を増やす。 ○小中連携やアセスメントを活用し、個に寄り添った生徒指導を行う。 ○生徒指導や実態を共通理解し全職員で指導するために常に情報共有する。
○養護教諭が生徒のSOSアンケートを定期的実施し、実態把握を行った。人権教育月間や道徳、学級活動から人権感覚の育成に努めた。地域の福祉施設や伊那養護学校との交流を通じた相手意識の深化の機会を設けた。	A a	○全教育活動において、人権意識の伸長を意図した指導と支援を継続して行う。自らの生き方を考える道徳教育や多様な人と一緒に社会を構成する意識の育成に一層力を入れて教材を使った道徳、他の領域とつながる道徳のカリキュラム作りを努める。
○「安全で学びやすい環境」についての到達度は生徒94%、保護者83%だった。本校舎に給湯設備がなかったが、本年度各階に一カ所ずつ設置された。校舎の破損箇所の早期の補修で安全確保に努めた。	A b	○毎月「安全点検」を実施し、修繕場所があれば関係各所と連絡をとり迅速に対応する。校舎の建築後かなりの年数が経っているので、丁寧に点検を継続していく。
○保育園・小学校と共催で、中学校を一次避難場所とした保護者への児童生徒の引き渡し訓練を実施した。	A b	○小学校や保育園、保護者や地域と連携し安全に関わる対応を進める。次年度は合同引き渡し訓練の時期の前倒しを計画。市の総合防災訓練に全校で参加し、防災意識を高める。
○「家庭や地域への情報提供、学校公開を積極的に行っている」の保護者の評価は88%、学校運営協議会員は100%、「縁側活動や高齢者施設訪問、花壇づくりなどの活動は、生徒の豊かな心を育てることに役立っている」の保護者評価は94%だった。	A b	○保護者や長谷学区地域支え合いの会などの協力を仰ぎながら、生徒が自ら考え自ら行動する資質・能力の育成に向け、協働していきたい。学校ホームページを活用した情報発信を継続したい。

	<p>連携</p> <p>○学校から地域への発信と協力・連携関係の構築</p>	<p>○学校理解に向けて積極的な情報伝達を行い地域の方々との協力により豊かな教育活動の追究ができたか。</p>	<p>○「将来、地域や社会、知らない人の役に立ちたいと思っている」の生徒到達度は87%、保護者到達度は85%に向上した。地域の理解と協力の成果と感じている。保護者に生徒の成長の姿を伝えていきたい。</p>	<p>A a</p>	<p>○キャリア教育や総合的な学習の時間、地域と関わる行事を通じて、地域や学外の方々との関わりを充実させ、生徒自身の生き方を考える機会としていきたい。</p>
	<p>研修</p> <p>○同僚性に基づいた研究・研修の実現</p>	<p>○研修会・研究会・各会議等が教育実践に効果的に作用しているか。 ○職員間の意志の疎通が図られ信頼関係に基づいた教育活動ができたか。</p>	<p>○生徒・学級・学校・地域等の個性や特長を生かし、「特色ある教育活動」を展開している」と全職員が回答し、「学校は保護者や地域の願いに応えた特色ある教育活動をしている」に対して保護者は89%の評価だった。</p>	<p>A b</p>	<p>○その年の研究テーマや教育課題、地域の特性に合わせた研修を行っていく。また、職員の発案での研修を継続するなどして同僚性を高めていく。</p>